

迎春



平成24年1月4日（水）発行 【隔月（年6回）発行】

発行部署 : ソリューション営業本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 古田 泰幸

第97号

〔目次〕

1. 2012年 新年ご挨拶
2. エネルギー使用合理化事業者支援事業
3. 自転車の歩道走行禁止
4. 3Dシミュレーションソフト導入
5. 場所自慢 Part2 ~第25回 中日本営業部~
6. 「2011東京トラックショー」参加レポート
7. 「ロジスティクスソリューションフェア」参加レポート



1. 2012年 新年ご挨拶

取締役兼常務執行役員 ソリューション営業本部長 小林 裕和

年頭のご挨拶を申し上げます。東日本大震災及び原発事故以来、未だに何かとご不自由な日々を送られている方もいらっしゃる事と存じます。当社でお役に立てることがありましたら、何なりとお申し付けください。一個人、一企業として社会から必要とされる存在であり続けたいと肝に銘じております。一日も早く生活が回復され、少しでも明るい年となりますよう祈念いたします。

さて、昨年の世相を表す漢字は「絆」が選ばれました。東日本大震災をはじめ台風やタイの大洪水など災害が相次ぎ、人と人の絆の大切さが見直された事、サッカー女子ワールドカップで初優勝した「なでしこジャパン」のチームワークに大きな感動を覚えた事は記憶に新しいです。そして、国際的にもTPPへの参加協議やCOP17等、全地球的な絆が今後試されていく事も挙げられるかと思えます。

今年は震災復興による内需の回復が進む一方で、原発事故の影響は長期化しています。さらに為替相場が円高水準で推移しているほか、欧米の金融不安や新興国のインフレ等海外経済の不透明感も増しています。また、昨年末には突然の北朝鮮の指導者交代が発生し、同国体制の更なる不安定化も危惧され、核問題を含めた東アジアでの国際関係の緊張が当面続くと予想されます。そのような環境の中で、ピンチをチャンスに変えていくには、現況及び当社の置かれた立場を正確に把握し、適切な戦略を立てて実行し、着実に成果を積み上げていく事が重要です。

そして、我がソリューション営業部の今年を考えてみますと、最大限の顧客満足を図る事を目的とした当社の中期経営計画『READ2012』の総仕上げの推進役を担うことが一番の使命であります。お客様のご要望にフレキシブルにそしてスピーディーに対応できるよう、また既存のお客様へのサービスアップ新規営業開発に向けた取組みを一層強化して参ります。『信頼されるソリューションプロバイダー』としてお客様との「絆」を一層深め、共に空高く舞い上がる「龍」の如き一年とするべく、積極果敢に取組んで参りますのでご指導の程よろしくお願い申し上げます。



2. エネルギー使用合理化事業者支援事業

日本の長期エネルギー需給見通しや京都議定書目標達成計画の実現など、事業者への省エネルギー対策の要求は年々高まっています。国も、産業部門、民生部門、物流部門の3セクターにおける各部門のエネルギー消費動向を踏まえつつ、エネルギー使用の合理化が総合的に推進されることを目的にエネルギー使用合理化事業者支援補助金を交付しています。

これは、「技術の先端性」、「省エネルギー効果」、「費用対効果」を踏まえて政策的意義が高い、優れていると認められる設備・技術を導入しようとする事業者に対し交付するものです。

当社において本年度は、運輸関連の高効率省エネ機器等の導入事業として2件の案件が認定されました。

当社は今後もこれまで以上に省エネ・環境技術分野における活動を積極的に推進してまいります。

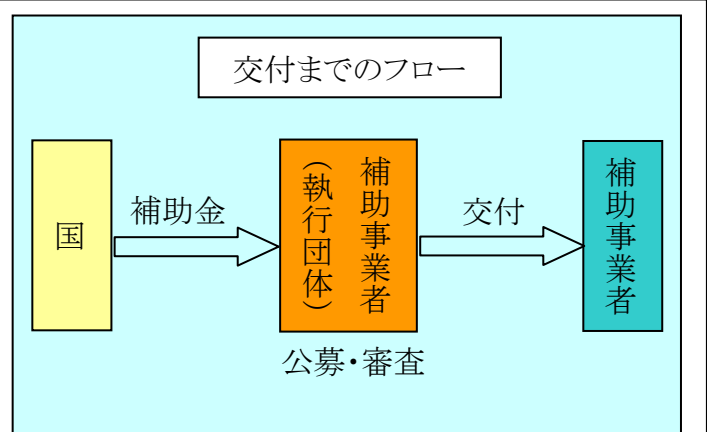
事業の種類、補助率および1件当たりの上限額

【1】単独事業(1事業者で行う事業)

- ・1/3以内
- ・1件当たり補助金の上限は50億円/年度
(補助金100万円未満(補助対象経費300万円未満)は対象外)

【2】連携事業(複数事業者による複数の既設の工場、事業場に行う事業)

- ・1/2以内
- ・1件当たり補助金の上限は50億円/年度
(補助金100万円未満(補助対象経費200万円未満)は対象外)



3. 自転車の歩道走行禁止

警察庁は10月、自転車の通行環境の確立や自転車に対する指導取締りの強化などを柱とした自転車交通総合対策をまとめ、各都道府県警に対し通達しました。

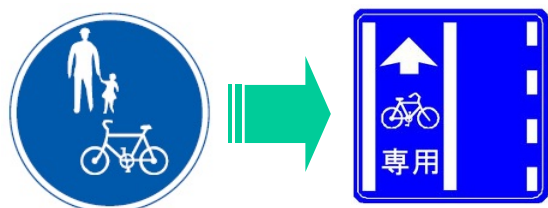
背景には、東日本大震災後に自転車で通勤する人が増えた一方で、自転車と歩行者の交通事故も増加傾向にある事が挙げられます。

道路交通法上、自転車は「車両」の一種ですので、歩道と車道の区別があるところでは車道を通行するのが原則です。また、車道では原則として左側端を通行しなければなりません。しかし、自転車が被害者となる交通事故の急増を受け、1970年に道交法が一部改正されて以降、多くの歩道について「普通自転車の歩道通行可」の交通規制が実施されるようになっており、これが「自転車と歩行者は同様の扱いを受ける」という誤解を生じさせていました。

自転車利用者のルール・マナー違反に対する批判の声は後を絶たず、統計によると、自転車利用中に死傷した人の約3分の2に何らかの法令違反が認められるという事です。

今回の交通総合対策の骨子は、①「自転車道や自転車専用レーンを整備すると同時に、幅3m未満の歩道については原則自転車の走行を禁止し、自転車と歩行者を分離する」、②「自転車は『車両』であることを徹底し、ルールの周知と安全教育を推進する」、③「悪質で危険な運転の自転車に対して指導取締りを強化する」といった内容となっており、今後自転車を取り巻く交通環境は大きく変化していく事が予測されます。

しかし、自転車道などの整備には時間がかかる事から我々物流業界に従事する者も含め、自動車の運転者側にも交通安全へのより一層の配慮が求められていく事となるでしょう。



4. 3Dシミュレーションソフト導入

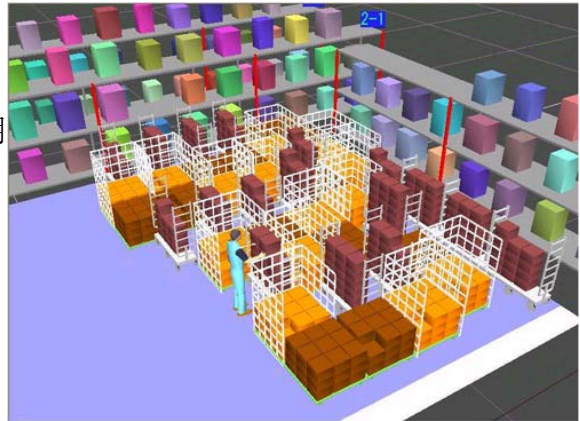
過去の本紙において、当社が構内物流効率化に用いる調査方法や解析手法についてご紹介して来ましたが、今回は新たに導入した3Dシミュレーションソフト(株式会社シーイーシー社製RaLC)についてご紹介したいと思います。

このソフトは、画面上で人・運搬機器・包装機等を実際に動かし、検討した改善案が実現可能か確認する事が可能です。当社は効率化を検討する際に、調査・解析から得られたデータを基に緻密な検証を行い、実現可能な効率化案をご提供するよう努めてきました。それに加え、3Dによる動きを加える事で、更なる精度アップを図りたいというのが導入の理由です。

また、当社の提案力のスピードアップも可能となります。今までのやり方は緻密さに妥協する事なく取り組んでまいりました。ただ、それには一定の時間が必要となり、それでは今後さらにスピードが求められる市場ニーズに対応出来なくなるとの危機感がありました。今回導入したソフトは今までのレベルを落とす事なく、検証モデルを容易に、且つスピーディーに作成する事が出来ますので、お客様の多様なニーズにも柔軟に対応出来ると考えております。

もう一つの理由は、プレゼンテーションにおける活用です。「百聞は一見にしかず」と言うように、実際に動いているものを見て頂いた方がイメージが湧きますし説得力も増すと考えました。

過去から蓄積したノウハウと新たなツールを融合させ、より良い物流サービスをご提案出来るよう、これからも邁進してまいりますので、今後とも宜しくお願致します。



5. 場所自慢 Part2 ～第25回 中日本営業部～

1979年1月に名古屋事務所として発足し、名古屋営業所・中京支店を経て、2005年4月から中日本営業部として活動しております。

現在、16名にて国内輸送・倉庫(一般倉庫及びタンク)・生産物流・通関業を含む輸出入業務を名古屋駅前の名古屋ビルディングで行っております。また、取扱製品も、化学製品は言うに及ばず、危険物、住宅用塗料、看板材、日曜雑貨、食品添加物、食品トレー等々あらゆる物流を担当しております。

この地域の観光地は、名古屋ドーム、世界最大のプラネタリウム等といった近代的なものから、歴史的に価値のある熱田神宮、徳川園、興正寺・・・と多々ございますが、やはり圧巻は金のしゃちほこを掲げた名古屋城でしょう。

昨今は名古屋おもてなし武将隊やあいち戦国姫隊の登場で、名古屋城二の丸広場ではかなりの頻度でイベントも催されており、大勢の観光客で賑わっております。

そんな名古屋城で味噌かつ、きしめん、手羽先、ひつまぶし、あんかけスパゲティ、味噌煮込みうどん、天むすなどの“名古屋めし”を満喫してはいかがですか？

皆さんも是非一度、で～らいっぱい名所がある名古屋へ来てちょ～よ！！

P. S. 7月からは名古屋ルーセントタワーへ引越します！！



名古屋城



おもてなし武将隊

6. 「2011東京トラックショー」参加レポート

2011年10月27日～29日の3日間、東京ビックサイトにて『2011東京トラックショー』が開催されました。展示の内容は大型トラックから、商業用の軽自動車、や2輪車、輸送に関連する機器・部品・資材など幅広いもので、来場者数は3日間で約8万人という盛況ぶりでした。



他の産業と同様、トラック輸送業界にも“省エネ・環境対応”といった要素がますます求められており、全般的に「低エネルギー」を売り物にした製品の展示が多かったように感じます。ハイブリッド型トラック、電気トラック、省エネ対応の車載冷凍機システムなど、最先端の技術に直接触れられるとあって、各展示ブースは多くの人で賑わっていました。

一方で、印象的だったのは“輸送の安全”に関する製品の展示です。IT点呼(※)に対応したアルコール検知器、個人の運転特性を見極めて安全運転をアドバイスする車載機器、追突事故防止に役立つ車両認識用の高機能反射テープ、積み荷の重心を検知して車両の横転を防止するシステムなど、安全に関する技術の革新も確実に進んでいると感じました。



※運転者に対して安全運行に必要な指示・確認等を行う事を「点呼」と言い、原則として対面で行う。一方で、カメラ付きパソコン等のIT機器を用いて遠隔地で行う点呼は「IT点呼」と呼ばれる。

7. 「ロジスティクスソリューションフェア」参加レポート

2011年10月31日～11月1日の2日間、東京ビックサイトにて開催されたJILS(日本ロジスティクスシステム協会)主催『ロジスティクスソリューションフェア2011』では、計78社の出展があり、物流機器からシステム・仕組み構築、効率化ツールに至るまで、実に多方面に渡る展示が見られました。中でも目立ったのは、昨年の東日本大震災を教訓とした災害対策、リスク管理に関する出展で、近年、効率化に傾倒してきた展示会から見ると、ある意味での方向性を見直しのような流れを感じました。

2008年に世界同時不況が訪れ、各企業ともこぞって原価・コストの見直し・効率化検討に取り組みながら収益力の向上に努め、ようやく息を吹き返しつつあった矢先の“(2011) 3. 11”。

甚大な被害の中、どうにか設備復旧の目途が立とうにも、効率化の取り組みで在庫を削減していたがために、生産が再開できない……。そのような経験をした企業も数多くあったものと思われます。「効率化」と「リスク管理(対策)」一逆行するかのようにも思われる、この命題とも言える課題に対し、最適なバランス感覚は一体どこにあるのか。

全く難し過ぎるこの問題に、果敢にも立ち向かおうとする人々の努力と探求心を感じることができる展示会でした。



ソリューション営業部 和田 聡

新年おめでとうございます。皆様、お正月はいかがでしたか。初詣に行かれたり、旅行されたり、ご自宅でゆっくり過ごされたりと、楽しい時間を過ごされた事と思います。私は毎年初詣に出かけて、その年に心がける事を決めています。「1年の計は元旦にあり」ということわざ通り、日常においても新しい事や次の仕事を始める際には、準備や計画をしっかり立てられるようにしたいと思っています。